

マイスター社長 高井 作氏



# 挑む

モノづくり ヒトづくり

IOT(モノのインターネット)を活用し、工作機械の稼働状況の見える化に取り組む金属加工のマイスター(山形県寒河江市、高井作社長、0237・86・4500)。2018年1月に稼働した新工場で、若手が主体となったプロジェクトが進む。高付加価値なモノづくりを目指す高井社長に今後の展開などを聞いた。

(山形支局長・大矢修一)

「本社工場に隣接する新工場(第2工場)が稼働して間もなく1年になります。IOTの活用状況はいかがですか。」  
「第2工場は数値制御(NC)機のみを導入している。自社で考えるIOTを実践し、各工作機械の稼働状況を見える化していくのが狙い。順次進め

カメラで工作機械の状況を監視。IOT化による改善活動は進む(第2工場)



を、ITに精通した若手が主体となって自前で取り組んでいる」

「例えば、機械の稼働に異常があれば、作業者のスマートフォンなどに連絡が届く仕組みなどが構築されている。市販のIoT部材を用いて、独自にユニットをつくるなど、工夫を凝らしている。今回のプロジェクトは、次代に向けた人材育成にもつながってくる」

「付加価値の高いモノづくりを目指しています。その考え方に沿って。」

「当社は量産品を手がける会社ではない。一品料理」に対応していく生産手法に磨きをかけていくことが、これからの生き残り策になる。IOTの活用で、技能者のレベルを

「社内には生産管理のプロジェクトチームを組織して、第2工場のIOT化による改善活動を進めている。光センサーやカメラなどを駆使して、工作機械の稼働状況などについて把握できる環境づくり

## 一品料理、対応 磨きをかける

### 各地から相次ぎ視察依頼

マイスターは装置関係機械部品の一品加工や特殊工具、切削工具の再研磨などを手がける。現在の社員は74人。人材育成の一環として、「自分はこうなりたい」と手を挙げた社員を、会社が応援する独自の自己啓発支援の制度などを設けている。新工場のIoT化の取り組みも、若手が自発的に取り組んでいきたいとの姿勢が反映されている。まだ始まったばかりのプロジェクトだが、モノづくり中小のIoT化の取り組みとして、各地から視察依頼が舞い込んでいる。

ポイント

「今後の展開は。」

「第2工場のIoT化は、今後も段階的に進める。新工場での新たな知見は、全社での改善活動にも生かされていく。活動の成果も踏まえ、生産現場では現場の近くで測定を行う環境整備も全体で進めており、生産性の向上につなげていく」

「技能のAI化などが考えられる。社内では保有する技能をAI化していければと考えている」

# 若手が主体 付加価値高める